



第1回演劇発表会 (1949)



高校修了記念(最前列中央が原将夫初代分校主任) (1950)



定時制第11回卒業生(最前列中央が柿崎源太郎初代校長) (1952)



「鶏小屋」と称された仮校舎 (1952)



1代目新校舎 (1955)



新校舎落成記念仮装行列 (1955)

1950

相次ぐ停電、薄い町民の関心… それでも生徒の向学心は熱く

電力制限による相次ぐ停電、薄暗い電灯の中でも、生徒たちは勉強できる喜びをかみしめ、向学心を燃やしました。

同時に、高校の存在を町民に広めるため生徒会主催による演劇発表会を新得座で開催。数年の後に大入り満員となる大人気行事となりました。

1948

70年の歴史の1ページ 定時制新得分校が設置

終戦により戦時体制下の国家主義教育が見直され、1947年から小学校6年、中学校3年、高等学校3年からなる6・3・3制の新たな学制が始まりました。

そして翌年、「働きつつ学ぶ」勤労青少年を対象に「北海道清水高等学校新得分校（定時制）」が設置。10代の青年から30代の働く父親まで、勉学に燃える生徒約50人が入学しました。



特集 新得高校、閉校



- 1948 (昭和23)年
 - ・北海道清水高等学校新得分校が設置
 - ・旧公民館(2条南3丁目)を仮校舎に開校式
- 1950 (昭和25)年
 - ・旧青年学校跡(宇新得西1線47番地)に移転
- 1952 (昭和27)年
 - ・北海道新得高等学校として独立
 - ・清水高等学校屈足分校は新得高等学校屈足分校へ
 - ・旧保健所跡(2条南2丁目)に移転
- 1953 (昭和28)年
 - ・校章を制定
- 1955 (昭和30)年
 - ・1代目新校舎が完成(現4条南4丁目)

1955

鶏小屋からの解放 念願の新校舎が完成

移転を繰り返してきた中でも、旧保健所跡校舎は日中でもなお薄暗く、終日便所の悪臭が漂う環境にあり、生徒も職員も「鶏小屋」と称していたほどの老朽校舎でした。

そしてついに、職員・生徒が丸となって進めた独立校舎設置運動のかいもあり、新校舎が建築されました。

1952

分校からの独立 北海道新得高等学校、誕生

新得分校は独立し、町立の「北海道新得高等学校」に改称します。初代校長として赴任した柿崎源太郎氏は10年にわたり高校の発展に尽力されました。

最後の卒業生、巣立つ

3月1日、北海道新得高等学校最後の卒業生13人が卒業証書を手に入れました。

これまで5033人の生徒を送り出し、輝かしい歴史を創ってきた新得高校は平成31年3月31日をもって閉校となります。

歴史をたどり、閉校に想いを馳せる

今号では新得高校70年の歴史を紐解き、生徒に愛され、地域とともにあった高校の姿を見つめ直すことで、閉校に想いを馳せまします。

